

**第 59 回建築士会全国大会「大分大会」に
於ける活動参加の報告**
(社)大分県建築士会日田支部 広報部長 秋 和夫

平成 28 年 10 月 22 日(土)の午後 3 時から大会式典に於いて「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」で地域の創生 **おんせん県おおいたで湧き上がる多様な知恵** を本大会テーマとして、全国 47 都道府県建築士会員による社会貢献を宣言しました。

大分県は、大友宗麟の栄華の後、江戸時代には 8 つの藩と天領、宇佐神宮所領、他藩の飛び地などに分かれました。この歴史的背景から、県内各地には個性的な歴史的町並みが現存しております。開催地である別府市は、源泉数と湧出量日本一の温泉地で、人口に占める留学生の割合は全国の地区で最も高く、様々な差異を理解し合い共生する町でもあります。現在の社会情勢は、人口急減・超高齢化に直面し、地域が特徴を生かして持続することが求められています。本大会を通じ、私たち建築士はこれまで全国各地で進めてきたさまざまなまちづくり活動の経験と知恵を共有し、さらに推進する機会にしたいと考えています。(大会誌より抜粋)



(受付会場の様子)

日田支部からは、生憎の雨の中、朝 6 時過ぎに日田市役所の北側駐車場に 38 名が集合して、大型バスで別府へ向かい、午前 8 時前には本大会会場の別府ビーコンプラザに到着しました。私は、第三駐車場への誘導係だったので、ホテル白菊の交差点に立ちました。雨が降っておりましたが、十数名の通行人から、会場の場所や駐車場の確認があり、未熟ながら案内等の対応を致しました。

受付ホールの一角には、20 企業の出展がありました。コンピューターソフト会社の BIM やメーカーの新商品紹介など、興味深いものばかりでしたが、そのうちのひとつで、坐 the 七島蘭工芸塾と七島蘭工房 伴 (SACHI) のお話を聞かせて頂きました。



(企業出展の中で・・・)

高級畳表で知られる七島蘭の畳表莫産は機械化が難しく、手作業に依るため生産者の数も減り、出荷数が少なく高額になってしまうのだそうです。出費を出来るだけ抑えたい建築主と、建設コストを安くしたい業者側の需要と供給の関係から、伝統品や手間のかかるものは、敬遠されがちです。我々、建築士による提案により、建築主に採用を考えてもらえるよう頑張りたいと思います。

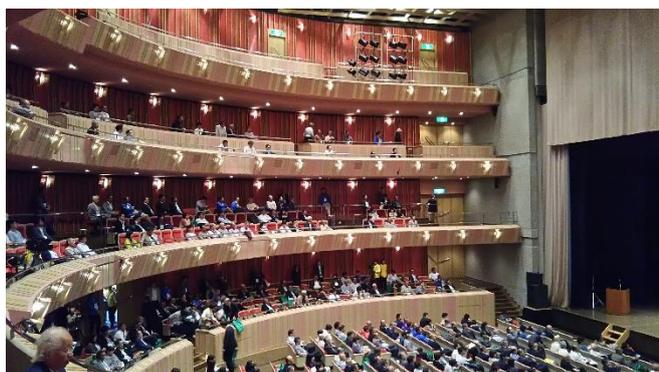
七島蘭材料を無駄にしないため、莫産に出来ない短いものや揃いの悪いものを使って敷物などの工芸品を工房で創っているそうです。工夫についても、勉強させて頂きました。

午後1時から行われたフィルハーモニアホールで行われた記念講演に参加してきました。

アートディレクターの河北秀也氏は、「本格焼酎いいちこ」の商品企画、パッケージ、テレビCMなどの企画デザインを一手に手掛けており、笑い話を含めてその苦労と裏話の紹介をしていました。



(講演会場の様子)



(客席は、一杯です・・・)

その後、三和酒類(株)取締役名誉会長の西太一郎氏が、焼酎を今のブランドにするまでの苦労とビジネスチャンスの捉え方について、お話されていました。西会長は、今でも「一営業マン」として、最前線で働いているそうです。素晴らしい講演でした。

大会式典に先立って行われた全国大会 14 連勝の大記録を持つ日本文理大のチアリーディング部「BRAVES」の華麗な演技は、大変好評でした。



(BRAVES の演技の様子)

大会式典は、大分県建築士会の井上正文会長の主催者挨拶で、「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」で地域の創生おんせん県おおいたで湧き上がる多様な知恵の大会アピールをして始まり、来賓祝辞や祝電披露、表彰式と滞りなく進行しました。ステージの左右に置いた竹工芸照明は、ものづくりの会場雰囲気さをさらに盛り上げました。



(大会式典の様子)

大会式典の最後に、京都府建築士会へ大会旗を引継ぎ、ホッとした大会実行委員の面々の笑顔が印象的でした。

明日の 23 日は、地域交流見学会「エクスカーション」が、Aコース(宇佐神宮・戦争遺跡を巡る旅)からEコースまで5つのコースがあります。各地の皆様には、大分県を堪能してもらいたいものです。

最後は、お楽しみの大交流会です。コンベンションホールで約400名の懇親会は圧巻でした。私は、大分県産安心院産の白ワインを飲みながら、色んな方と談笑し美味しいお料理を沢山頂きました。大混雑の2時間ちょっとの間で、数名の方とのお話しかできませんでしたが、充実した空間と満腹のひと時でした。



(大交流会の様子)

次回の開催地は、京都府建築士会です。第60回建築士会全国大会「京都大会」は、平成29年12月8日「山とまちと木造建築」を大会テーマに掲げています。既に8月にキックオフミーティングも済ませており準備も着々と進んでいるようです。個人的には、京都府建築士会の事業委員会委員長の岡本理事から、わざわざ声を掛けて頂き以前一緒に仕事をした知人と久しぶりに電話でお話しました。ぜひ、京都大会に伺いたいと思いますので、よろしく願います。

《報告後記》

今年の4月14・16日の熊本地震では、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。当日は、私の住んでいる日田市でも震度4の揺れがあり、別府や由布市でも建物に大きな被害が出ております。大会前の10月21日に起きた鳥取地震でも大きな被害が出ており、鳥取県建築士会の方々も、大会当日に、参加を断念された方もいらっしゃると思います。地震災害に加えて最近の異常気象による大雨や台風、竜巻により二次災害も多数発生しています。人間の小さな力では、大きな自然の力に立ち向かうのは容易なことではありませんが、建築士会員のみんなが結束力を持ち、専門知識や技術で力を合わせ、命と財産を守っていければと考えています。

「最近、地震が多いですね。うちの家は大丈夫でしょうか？」という相談を受けることが多くあります。「小屋裏や2階の不要な家財や荷物を片付けて建物自体の重心を下げてやれば、構造体の負担も減ります。素人でもできる一番簡単な耐震対策です。また、通路を確保することで、避難もしやすくなります。」とお答えしました。

「それなら、お金が無くても出来ます。ありがとう。」という、言葉が耳に残っています。お役に立てたでしょうか。

(広報部長 秋 和夫)